

**大津茂川田井潮止め水門**

昭和51年(1976)に大津茂川が非常に激しい災害を受けました。その後、大きな改修が行われ、昭和53年(1978)「よこせん」に変わる潮止め水門が完成しました。農地や住まいの防災、干満時の水門管理の役割があります。

行った日



**大津茂川横堰跡**

元禄13年(1700)福井大池が水不足になり、田井・平松・吉美の三つの村は池から水をもらうのをやめました。その代わり、大津茂川の一番川下にある平松に井筒(水を引くために川をせきとめたところ)をつくりました。用水をためておき、塩害防止に役立ちました。地域の人々からは「よこせん」とよばれていました。

行った日



**春日神社**

まつられているのは天照大神、天児屋根命、武甕槌命、経津主命で、穀物(米や麦など)のみの実り・安全・緑むすびの神さまとして信仰を集めています。

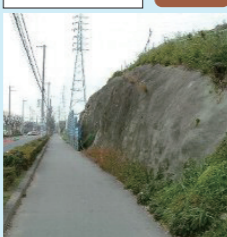
行った日



**上管岡・下管岡・魚戸津・杓田**

『播磨国風土記』という本に書かれている地名「上管岡・下管岡・魚戸津・杓田」あたりがその場所ではないかと考えられています。「魚戸津」は大津茂川の河口あたり、「上管岡」は西土井にあった丘と考えられています。

行った日



**田井屋台**

今の屋台は昭和31年(1956)につくられたものです。擬宝珠に沿うように金のしゃちが空にはね、屋根の前後の紋は「田井」をもじって「鯛」が波にはねています。かつぎ棒の吉野杉は節がなくてしなりがよく、練り子に平等にかがかるように工夫されています。

行った日



**大津茂地区**

**37 大津茂地区**

この地区は大津茂川を中心に土地が開けました。地区の中心となる大津茂川はどこからどこにつながっているのでしょうか？川の歴史を調べてみましょう。



調べたこと、  
わかったことを  
書いてみよう！



- 遺跡・史跡 歴史上の名所
- 神社・仏閣 歴史的建造物
- 歴史上の人物など
- 祭り 伝統行事
- 美術品
- 伝統芸能 など
- 景勝
- 生物・花
- 町並み
- その他

0m 250m 500m

**武大神社**

素盞鳴命・少彦名命・天水分命・国水分命がまつられています。大津茂川の水害により、明治以降3回も場所を変わり、改修されました。「水神さん」は他の村に見られないもので、字金保の竹やぶにまつられていましたが、2回目の改修のときに他の神さまと一緒にまつられました。

行った日



**宮田西川**

慶長9年(1604)に描かれた図によると、「裏新田」に川が曲がって入りこんでいて、じめじめした土地がたくさんありました。幕末に、じめじめした土地を減らし、浮華の周りはレンコン畑などに利用していました。浮華の両岸には伏流水がわいています。

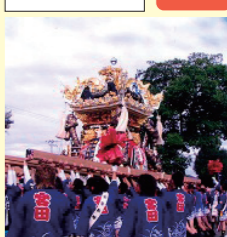
行った日



**宮田屋台**

今の屋台は3代目で平成5年(1993)につくられたものです。前後に「松に鷹」の紋をつけ、左右には巴がついています。高欄下には播州屋台唯一の若狭塗りがしてあります。隅絞りは亀甲模様で鳳凰が描かれ、屋台にすぎまがないよう引きしめられています。

行った日



**室津道**

姫路藩の飛地(※)で、重要な港として栄えた室津に通じる古い道です。「室街道」「室海道」ともよばれました。室津に泊まった朝鮮通信使の一行をむかえるために、姫路藩の役人たちがたびたび行き来しました。  
※飛地…一つの国の土地のうち、地理的に離れた場所にある土地

行った日



**室津道の田井の土橋**

大津茂川にかかる最終橋で、欄干もなく弱々しい橋げたに土を盛っただけの狭い橋でした。魚吹八幡神社の秋祭りでは宮田や大津の屋台が通りましたが、村の人々は屋台を中棒だけがかつぎ、冷や汗をかきながら通ったと伝えられています。

行った日

